

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： プログラマブルビジョンによる次世代イメージング
2. 研究代表者： 久保 尋之（千葉大学 大学院工学研究院 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、空間・波長・偏光などの性質に基づいた光の伝搬をプログラマブルビジョンの枠組みで統一することで、隠された潜在的な映像を可視化する次世代のイメージング技術の実現を目指すものである。フェーズ1では半透明なマルチレイヤ構造のシーンの深度計測、イベントデータの効率的なレンダリング等の研究成果が得られており、受賞により対外的に高い評価を得ている。低サンプリングレートの測定器を用いた画像再構成手法の開発等、当初予想しなかった成果も創出している。フェーズ2ではフェーズ1で得られた成果の組み合わせを試みるという個々の研究計画は、ニーズを重視した具体的なものであると評価できる。一方、最終的には統合するというビジョンが提示されているが、具体性については不十分である。マルチドメインなプログラムビジョンについて、従来研究とは異なる新たな学理として体系化し広く発信すること、および過去の研究も紐解きながら、独自のアイデアを入れることを期待する。

以上